

銚子川の魅力発信

紀北でシンポ 写真家講演も



銚子川の写真を前に熱心に語り合ったパネリストたち。左端が内山りゅうさん＝紀北町海山区の海山公民館で

ム」が二日、同町海山区の海山公民館で開かれた。

紀北町が誇る清流銚子川の魅力を内外に発信するのを目的にした「銚子川シンポジウム」

大台ヶ原を源流とした全長二十キロの銚子川は、透明度が高く、豊かな生態系を誇る。COP10の開催を控え、環境への意識も高まる中、銚子川の魅力をより理解してもらおうと町が初めて開いた。

シンポジウムでは、和歌山県白浜町在住の写真家内山りゅうさん

(四)が講演。銚子川に十七年前撮影に訪れ、あまりの美しさに写真集でも川の名前を公表しなかったエピソードを披露。紀伊半島の川の美しさにひかれ、十一年前に東京から引越した内山さんだが「銚子川の美しさは格別。生活排水も流れこまず、流れ出す熊野灘も美しい。こうした川が残っていることが奇跡」と話し、地元で受け継ぎ守ることが大切と訴えた。

その後、内山さんと銚子川漁業協同組合の組合長松場妥さん、町職員で銚子川での「遊びの達人」上村毅さん、三重大学生物資源学部の原田泰志教授らと交えパネルディスカッションも開催。地元の出席者は子どものころに遊んだ経験などを熱く語っていた。

(藤原啓嗣)